

職場体験 感想文コンクール2025

タイトル	温かさにふれて	事務局	101
学校名	新庄市立新庄中学校	氏名	荒木 彩来 <small>（よら）</small>

私は新庄が好きだ。今の自分ならそう胸を張って言える。

仕事体験初日、私は新庄コミュニティ放送局あすラジの前にいた。予定よりも早く到着していたので外見を観察してみることにした。正面には大きく描かれたあすラジのマーク、そしてその上にはスピーカーがあり、外からでもあすラジを聴けるように工夫されている。マークの右側に行くと、小さなスタジオがあった。通りすがりでもあすラジの様子が良くわかる構造になっている。

私があすラジに決めた理由。それは姉の影響である。以前、姉は職場体験学習であすラジに訪れていた。その姉の姿は自信に満ち溢れていて、幼い私にはあまりにも眩しかった。自信がなく内気な私にとって姉は憧れの存在だった。その時の記憶が忘れられず、思いのままに選んでいたのだろう。また、今年の総合的な学習の時間で、知らなかった新庄の一面を知る機会があった。その時の楽しさをまた感じたいと思ったこともきっかけになった。

面接では、面接官の方が優しくかったこともあって、リラックスして受けることができた。しかし、勢い余って話し言葉を何度も使ってしまった。だが、この面接のおかげで言葉遣いの一つ一つの大切さを学ぶいい機会になった。結果として無事合格することができた。当日、私は期待に胸を躍らせていた。そうして2日間の仕事体験がスタートしたのだった。

1日目は、ミキサー室（声のボリューム調整やラジオとラジオの合間に流す音楽を入れる場所）での仕事、新庄市内のお店へ現地レポートなど、様々な業務をさせていただいた。ミキサー室に入ると目の前にタブレット置かれていた。話によると、リアルタイムでコメントが送られてきているそうだ。リスナーさんの生の反応が見られて面白いと思った。ミキサー室で私はトーク中の声のボリュームを常に調節したり、トーク間の曲を流したりする仕事をした。そこで担当者さんは「コツは、話の流れをよく聞くこと。リスナーさんがボリュームを変えずに聴けるとベストかな」とアドバイスをくださった。元広報委員としての経験を活かせば上手くできるだろうと考えていたが、自分以外の人の調節だとなかなか難しかった。新庄弁がわからない私には、会話の内容がよくわからなかったのだ。タイミングをつかみかけたころには、私の番は終わってしまっていた。落胆する私に担当者さんは「最初から上手くやろうと思わなくていい、ちょっとずつ慣れていこう。」と声をかけてくださった。次の仕事の現地レポートでも失敗が続いてしまった。そんな中でも、常にあすラジの方々は私を励ましてくださった。なんて優しい人たちなんだろうと目頭が熱くなった。

1日目の仕事が終わって、浮かない気分のまま2日目の仕事内容を確認していると、「じゃあ、明日1人トークしようか。」といういきなりのワードに、私は思わず驚いてしまった。「明日の2時にゲストで来てもらおう！10分ぐらいトークできる？」と聞かれ、勢いで「やります！」と答えてしまった。空いた時間にトーク練習をしていたものの、私1人となるとかなり頑張らなければならない。でも、やるしかない。そう心に決めて1日目が終わった。

2日目の仕事体験が始まった。この日はレポートから始まった。お店の方に、私も一緒にレポートしていると話すと、「がんばって！」と応援していただいた。昨日の反省を活かして、気に

なったものはどんどん聞いてみようと思おうと積極的にレポートをした。その結果、1日目よりも多くの魅力や話題を引き出すことができた。お店の方も耳寄りな情報を教えてくださり、「私もあすラジを通して、このお店を盛り上げたい。」と強く思った。

レポートが終わると、お昼まで何度もトーク練習を重ねた。練習の末、5分程度は話せるようになった。担当者さんが「あとは自分の思ったこと、感じたことをそのまま自分の言葉で伝えたいよ。」と言ってくださった。

2時になり、私の出番が来た。始めは担当者の方々とトークをし、3分間の音楽が始まった。音楽が終わるといよいよ1人トークの時間だ。テーマは「新庄のお店をレポートしてみよう」だ。担当者さんが横で見ているとはいえ、昨日の失敗を思い出し、私はマイクを下げたくなった。けれど、新庄のみなさんと会話をして感じたやさしさ、温かさを伝えられないのはどうしてもできなかった。たった2日間で自分がこんなに新庄を知りたい、好きになりたいと思うようになるとは想像もしていなかった。感じたことのないくらいのスピードで、自分が新しい自分に変わっていくのがわかった。そこからは、感じたままに話していたという記憶と、無事に伝えられた達成感だけが残っていた。

トークタイムが終わり、スタジオを出ようとする時、担当者さんがタブレットに移るコメントを見せてくださった。「おつかれさま」「すごかったよ」など、たくさんの祝福のメッセージが寄せられていた。私は嬉しくて思わず涙が出そうになった。その時、自分の努力が報われた気がした。頑張ったよかった。これがやりがいってヤツなのかとしみじみとした。担当者さんは「ちなみに10分間トークしたのは彩来さんが初めてだよ。」と、驚きの事実を教えてくださいました。担当者さんはいつもその時に一番かけてほしい言葉をかけてくれるなど、私は感心してしまいました。

気持ちも落ち着き、あすラジのみなさんにインタビューをさせていただいた。この時、「彩来さんは新庄を知りたいって興味を持ったから新庄が好きになれたのだと思う。」「まだ知らないことがあるってことは、これからもっとここを好きになれるってことだと思うよ。」と言っていたことが特に記憶に残っている。また、「あすラジで働くうえで大切にしていることは？」とお聞きしたところ、「見ての通り、全員の個性が強い。もはや個性の塊だから『自分らしさ』や『自分の言葉で伝えること』を大切にしている。みんな感じ方とか考え方違うよね。まさにみんな違ってみんないい。」とおっしゃっていた。自分の軸、感性が凄くしっかりされていると感じた。これこそが感じ方の違いなのかもしれない。この2日間であすラジは一人一人が自分を主張していて、相手の個性を潰すことなく尊重しあっている雰囲気の良い職場だと思った。また、互いに助け合ってきたからこそその温かい姿がとてもステキで、あこがれをもった。

私は今まで、将来のことから何度も目を背けてきた。将来のことなんて、目の前の大切なことに比べたらどうでもいいことだった。それなのに、中学生になって急に周りが意識し始めたことで、自分が置いて行かれてしまうのではないかと怖かった。でも、この仕事体験で働くことの大変さ、楽しさのどちらも知ることができた。そのおかげで、この先のことが少しだけ楽しみになった。これまでの自分を尊重しつつ、これからの自分も受け入れられる、そんな大人に私はなりたい。